

■ 日本列島の猛暑日が続いている(8月5日現在)。勢力の強い太平洋高気圧に襲われているからという。札幌も同様だ。熱中症への注意が必要だ。北海道の夏は涼しいと観光客に好評なのだが、連日、30度を超し、かつ湿度が高くては街を歩く人はまばらだ。かき氷屋さんが大繁盛とか。札幌大通公園のビアガーデンは連日超満員のようだが、猛暑は商店街の売上げに影響が出そうだ。クルマの室内はエアコンでキンキン冷えている。猛暑でも平和な日本の日常生活がここにある。

■ 東京オリンピック開催もあと5年、そして、札幌市は2026年の冬季オリンピック開催の立候補を目指している。スポーツで開催都市の知られない魅力や文化など、世界の人々とのコミュニケーションを図り存在感を高めることは大いに良い。

ただ、施設や公共交通網などのハードの建設については、その必要性和共に経費(投資効果)などを大いに議論すべきだ。また、一番大事にしなければならないことは自然と人間(市民)との共生を失わないことだ。人の心を傷つけないことだ。

例えば、高速道路は人の移動や物流の効率を高めた。しかし、これからも今のままでいいのだろうか。景色の美しさがなくなったとき、文化の街でなく風俗的な街になるという。高速道路を建設するときに充分の配慮が必要だ。

■ 東京の日本橋は日本の道路元標があり、日本の道路網の始点となっている橋だ。そこに、1963年(昭和38年)橋の直上に首都高速道路が建設された。東京オリンピック開催のためにだ。米国や韓国では高架を撤去し、公園や清流を復活させた例があるという。

東急グループを率いた五島昇氏は生前、21世紀のレジャー産業は自然と触れる場を提供すべきで、環境を壊す投資はやめよと説いた。まちづくりに通じる発想だが、まちづくりは人間が主役だ。オリンピック開催の精神、理念が問われる。

■ 大会創設100年の節目を迎える第97回全国高校野球選手権大会が8月6日に甲子園球場で開幕し、代表校49校が熱戦を繰り広げる。

我が郷土の代表校は全国最多となる36度目出場の北海高校だ。開幕試合で鹿児島実業高校と対戦するが、その結果は本稿を執筆している今出ていない。またもう一つの北海道代表は白樺高校だ。下関商業との対戦だ。球児、純心な気持ちで白球を追うその姿にウソはない。高校野球はワクワク、ドキドキのスポーツイベントだ。ウソのない真剣一発勝負だ。

そして、「ウソを言わない、約束を守る」は商売の鉄則でもある。高校野球から大人が学ぶことはたくさんあるようだ。

■ ガソリンエンジン(GE)の排気量を下げて過給器で出力を補う「ダウンサイジングターボ」が注目を集めている。「ハイブリッド」「クリーンディーゼル」に続く新たなエコカーとして広がりをみせている。元祖は『フォルクスワーゲン・ゴルフ』、トヨタは「オーリス」。

ダウンサイジングターボは、コストの面でも有利となる。コストと燃費性能のバランスに優れるダウンサイジングターボの普及が加速している。国内のオーリスは、1.5、1.8?自然吸気も設定する中、1.2?ターボを最上級グレードに位置付けている。これからのクルマはエコカーが主流だが、エコカーの多様性でユーザーは選択肢が増え、もっとクルマを楽しめる時代となった。